

Green Brave

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

Japanese Endurance Race

Super Taikyu

BRIDGESTONE



ENEOS

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2023 Supported by BRIDGESTONE 第7戦

2023年11月11日(土)~12日(日)

S耐ファイナル 富士4時間レース with フジニッフェス。

■■■ 予選のアクシデントを乗り越え今季4勝目と全戦表彰台を達成 ■■■

第7戦のレース時間は4時間。ジェントルマンドライバーの山崎選手とGBドライバーの吉田選手、服部選手、川合選手が出場しました。土曜日(予選日)の天候は雨。ジェントルマンドライバーが出走するAドライバーの予選では、直前に降り始めた雨の中、山崎選手がドライタイヤでアタック。難しいコンディションの中、1分48秒579のベストタイムをマークし、トップにつきました。プロドライバーが多く出場するBドライバーの予選では、雨量が強まる中、吉田選手もドライタイヤでアタック。1分53秒011のベストタイムをマークして4位。両ドライバーの合算タイムにより予選2位となり、好位置を獲得しました。Cドライバーの予選では、服部選手がウェットタイヤでマシンのバランスを確認。続くDドライバーの予選も川合選手が同様のセットでコースに入りますが、走行中に後続車に追突されるアクシデントが発生します。左リアまわりを破損しており、一時は決勝の出走も危ぶまれましたが、店舗メカニックが持ち前のチームワークを活かして修復を実施。その日中にリペアを終えることができました。

日曜日(決勝日)の天候は曇りで、路面コンディションはドライ。チームはスタートドライバーに吉田選手を起用。得意のピット戦略を駆使し、川合、服部、山崎とつなぎ、トップを狙います。12時30分、4時間の決勝レースがスタート。吉田選手は予選1位の#22ケイマンに続き1コーナーへ進入しますが、#885GR Supraにかわされ、3位に後退します。5周目に#885GR Supraを抜き返し、2位に復帰。31周目、#22ケイマンのピットインにより吉田選手がトップに浮上し、その後、#885GR Supraとテールトゥノーズになります。43周目の終わりに#885GR Supraがピットに入ると、翌周に吉田選手もピットイン。川合選手に交代し、給油のみでレースに復帰します。

ピットロードの混雑により、川合選手の順位は#885GR Supraと15秒差の2位。川合選手のペースは良好で、15秒あった#885GR Supraとの差を7秒まで短縮し、さらに#885GR Supraが67周目にピットに入ったことでトップに浮上します。81周目には#885GR Supraを周回遅れにするまでリードを拡大。川合選手は89周目の終わりにピットに入り、服部選手に交代します。給油とタイヤ交換を行いピットアウト。服部選手はトップのままコースに復帰します。#885GR Supraに対するリードは55秒。残るハードルは山崎選手の乗車義務(1時間)をクリアすることです。タイヤのウォーミングアップを終えた服部選手は、93周目の終わりにピットイン。山崎選手に交代し、給油のみの作業でコースに復帰します。この時点で山崎選手の順位は#885GR Supraに次ぐ2位ですが、101周目に

#885GR Supraが最後のピットインを行い、作戦通りトップへ。両者の差は30秒ほどで、山崎選手はチームの指示を受けながら、安定したペースでラップを刻みます。山崎選手は#885GR Supraに20秒差をつけてトップチェッカー。今季4勝目、全戦表彰台という最高の結果を残し、有終の美を飾りました。

山崎選手と並ぶ、今大会の功労者が6名の店舗メカニック。市販車のGR Supraと大きく異なるGT4車両に戸惑いながらも、土曜日の予選中に発生したクラッシュに対応。元通りにクルマを修復し、4人のドライバーの戦いを後押しすることができました。表彰式の終了後には、第2戦の富士で共に戦った野中誠太選手も参加し、記念撮影を実施。ピットは大きな盛り上がりを見せました。

決勝結果 (ST-Zクラス)

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4

(山崎 学/吉田広樹/服部尚貴/川合孝汰)

決勝: 1位 (127周、4時間02分16秒891)

予選: 2位 (合算タイム3分41秒590)



DRIVERS VOICE

前の3人がギャップをつってくれたのでぼくはコースにとどまっているだけでよかったです。ペースを上げる余力はありましたが、後続とのギャップを意識しながら確実にマシンをチェッカーまで走らせることを最優先に走りました。ショートステイントの服部選手にタイヤの熱入れをしてもらったことで、アウトラップから安心して走れました。少し出来すぎの結果だと思いますがチームが力を合わせて掴んだ結果なので胸を張りたいと思います。応援していただき本当にありがとうございました。

(山崎 学選手)

序盤のペースは良かったものの、周回遅れとの巡り合わせで後半はライバルに接近されました。中でもお互いフェアなレースができたのでポジションをキープしたまま交代することができました。チームの作戦を4人のドライバーがしっかり遂行できたので、強いライバルチームにアドバンテージを持ってチェッカーを受けた完璧なレースだと思います。シリーズチャンピオンと全戦表彰台という完璧な1年にできたのも応援あってこそだと思います。ありがとうございました。

(吉田広樹選手)

表彰台が獲得できる順位ならどこでもいいと思っていましたが、こんなに作戦がうまくいとは思いませんでした。今回の作戦は自分の走る周回数は減りますが、最も効率的で、現状考えられるベストな作戦を実行できました。前戦でチャンピオンを決めて、今回の最終戦でもう一度優勝できて本当に良いシーズンでした。全戦表彰台に登れる壊れないマシンづくりしてくれたチームに感謝します。来年も今年と同等の成績を残せるよう、みんなで力を合わせて頑張ります。

(服部尚貴選手)

セカンドのパートを担当させていただいた時のペースは悪くなかったのでロングステイントを走る形になりました。タイムの落ちも少なく走れ、自分なりにミスなく終えられたので満足しています。予選のアクシデントもありましたが、結果としてチーム力の強さが表に出たと思います。シリーズチャンピオン、全戦表彰台かつ最終戦も優勝というこれ以上ない結果を残せました。今シーズン、皆さんの応援を活かに頑張る走ることができました。本当にありがとうございました。

(川合孝汰選手)

ST-Z クラス決勝結果

- 1位: 埼玉トヨペット GB GR Supra GT4 (トヨタ GR Supra) 127周**
 2位: シェイドレーシング GR SUPRA GT4 EVO (トヨタ GR Supra) 127周
 3位: Porsche EBI WAIMARAMA Cayman GT4 RS CS (ポルシェ ケイマン) 127周
 4位: SUN'S TECHNO AudiR8 LMS GT4 (アウディ R8 LMS GT4) 126周
 5位: ナニワ電装 TEAM IMPUL Z (日産 Z GT4) 126周
 6位: ベンチャー投資のファンディーノ AudiR8 LMS (アウディ R8 LMS GT4) 126周
 天候: 曇 路面: ドライ トップ6まで (出走 11台)

ST-Z クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	52	埼玉トヨペット Green Brave	174.00
2位	885	SHADE RACING	141.50
3位	34	TECHNO FIRST	99.00
4位	26	TEAM ZEROONE	77.50
5位	21	Audi Team Hitotsuyama	73.00
6位	19	Birth Racing Project【BRP】	60.50
7位	20	ナニワ電装 TEAM IMPUL	59.50

1年間応援ありがとうございました!

Green Brave PARTNERS



赤城車体工業株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



埼群スリーボンド株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社西武ライオンズ



ティーズ・ワークス



株式会社デンソーソリューション



株式会社ドーム



トヨタホーム東京株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社 埼玉支社



ファクトリーギア株式会社



富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社



丸和工業株式会社



Mechanix Wear LLC

※50音順